



ガバナー公式訪問だより

7/11(水)

井原ロータリークラブ

訪問者：森田ガバナー、松本随行幹事



河合会長の下に、会員の親睦と融和を図り、穏やかで楽しいクラブになる事を目指しており、実際に和気藹々とした例会であった。継続事業として

「イングリッシュスピーチコンテスト」を中学生を対象に行っており、毎年25～50名の応募者で盛り上がっている。4年目の今年も楽しみな行事であり、いち早く「公共イメージと認知度の向上」を実践している姿は敬服に値する。東日本大震災に対しても45周年記念事業を縮小して、その予算を支援に回した他に、「東日本大震災基金」を創設し継続的に積み立てることにより、支援援助を風化させない取り組みは見習いたい。会員増強にも熱心であり、ここ2年も純増となつて47名の陣容となっているが、本年は3名の増員により50名の大台を目指している。ぜひとも達成していただきたい、と思うと同時に必ず達成できるであろう雰囲気を感じながら例会場を辞去しました。

7/12(木)

総社ロータリークラブ

訪問者：森田ガバナー、鴨井随行幹事



まず、最初に感じたことは、森田ガバナー、鴨井地区大会実行委員長のお人柄についてです。初対面にも関わらず終始優しい眼差しで接してく

ださり、緊張して場に臨んでいる私たちの硬さを和らげてくださったと感じています。当然の事のように思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、とても大切に、誰もが出来ることとは思いません。やはり普段から人との接し方についての思慮深さと実践がそうさせているのだと思います。

次に、森田ガバナーのお考えについてですが、「効

率性」という強い「軸」を感じました。ガバナー月信の電子化に始まり、今後も紙ベースの資料をできる限りなくしていくという方向性。少なからず反対の声もあるかと推察いたしますが、これから先を考えた場合、電子化・IT化にも対応できる力を持つ必要があるという確固たる考えのもとに実践に移されているお姿には、将来を見据えた力強さを感じました。

また、計画をされている事業の1つ、「一緒に食べよう」イベント。会員ではなく、一般の方300名を対象とし、「同じ釜の飯を喰らう」ことをやろうという発想は、今までに無いものだと思います。「意味なきことをすることに意味を感じる」「いかに杵を破っていくか」が大切というお考えを持ち、ロータリーは内向きへの活動が多過ぎるので、それを外へ向く力へ変えていきたいという1つの具体的方法であると理解しました。

森田ガバナーのお考えをよく理解し、クラブ活動が活発になるよう会員を刺激していきたいと思いました。

(総社 RC 幹事 櫻井浩之様からの寄稿)

【森田ガバナー facebook より】

本日は総社クラブです。このクラブは森下パストガバナーがご活躍ですし、小鍛治ガバナー補佐を出していただいているので、半ば表敬訪問という事になります。訪問してみても会長・幹事の打てば響くような反応が大変頼もしく、従前に較べると会員数減ではありますが、今後が大いに期待できるクラブだと思います。

7/17(火)

児島ロータリークラブ

訪問者：森田ガバナー、内田随行幹事・藤木随行幹事



児島 RC は創立47年目を迎える会員数31名のクラブです。例会場のせとうち児島ホテルは瀬戸大橋をはじめ、瀬戸内海、遠くには四国を望める

素晴らしい景色が一望できる景観の地にありました。平均年齢64歳、40代から60代が全体の7割(20名)を占めるバランスの取れた会員構成のクラブです。クラブ運営は基本に忠実で西原会長のお人柄か、とてもアットホームな素晴らしいクラブだと感心しました。例会